2023年5月19日

承認	審査	作成
坂井		杉浦

2023年度 全社環境活動計画

Ⅰ. '22年度 活動状況

1. ISO14001認証審査

合併後、初のISO14001認証審査を受け無事認証継続

不適合:0件　　観察事項:1件

2. 環境KPI

1)環境KPI各項目の達成状況

(1)電気(t-CO_2)	目標:	748.63	実績:	728.87	評価:	○

→物Cゾーン空調増設により使用量が増加したが、照明LED化により目標達成

(2)産廃(t)	目標:	260.36	実績:	192.15	評価:	○

→産廃として排出予定だった木パレを利材化したことにより目標達成

→ミラーマット利材化を進めたが運用に至らず産廃として処理してしまった

(3)水(㎥)	目標:	3612.02	実績:	3459.97	評価:	○

→第3製造課の寮廃止により成行で水使用量が減り結果、目標達成

(4)物流CO_2(t-CO_2)	目標:	2659.61	実績:	2610.58	評価:	○
(㎞/ℓ)	目標:	3.96	実績:	3.87	評価:	×

→仕事量が減ったことにより物流CO_2が減り、物流CO_2は目標達成

→燃費向上に対し活動を行ったが車両更新が無く燃費目標未達

3. 法令順守

1)ISO14001内部監査にて環境法令の認識が甘く順守できていない項目散見

→2022年下期に法令説明会を実施したが、認識が深まるまで継続

(1)フロン排出抑制法:業務用エアコンの簡易点検未実施、定期点検の認識不足

→各拠点のフロン類の現地確認を依頼し、点検が必要な機器をリスト化

(2)消防法:危険物指定数量の認識が甘く、少量危険物倉庫届出未実施

→法令に準じた倉庫に回収(2023.5)、改修後少量危険庫の維持管理

(3)水質汚濁防止法:法令該当拠点という認識が無く、届出未実施

→水質汚濁防止法特定施設届出を実施、1回/年の水質調査を実施していく

(4)豊田市の環境を守り育てる条例:油水分離槽の点検方法が悪く社外流出可能性有

→日常点検の中に2層目に油浮きがあれば緊急事態として対応するよう変更

4. 環境活動結果

1)2022年度環境活動の振り返り

(1)ISO14001のプロセス図に沿った全体の流れを説明

→年度末理解度テストを行ったが、力量評価の確からしさを見直す必要有

(2)環境改善活動

①電気…照明LED化により使用量削減したが、カーボンニュートラルに向け中長期計画を策定し、その他の改善アイテムや太陽光発電の検討要

②産廃…木パレットとミラーマットの利材化に取り組んだがミラーマット利材化が進んでいなかった為、2023.4月から利材化運用開始していく

③物流CO_2…車両更新が無く全体的に燃費が下がってしまった為、来期燃費向上アイテムを検討し活動する必要有(営業所統括センター)

2)TB環境賞(PMRシート)の指摘項目

(1)TB環境チェックシートの評価結果　　評価結果:平均点(3.1) 維持

→平均点は3点以上だが、1点等の項目について修正していく必要有

①自主基準値の設定がされていない

②各拠点の環境リスクマップが作成されていない

③浄化槽異常警報装置の導入検討

④ISO相互監査

⑤危険庫(少量含)、コンプレッサーの日常・月次点検表の統一

⑥環境改善アイテム(TB省エネ40アイテム)

5. その他

1)働きやすい職場認証制度の認証

→2022年度初めて認証申請を行い、無事認証(来期は二つ星認証申請)

2)スコープ1、2、3の総量把握

→今までのKPIだけでなく、全ての温室効果ガスやサプライチェーンの排出量を見える化し、カーボンニュートラルに向けて活動していく必要有

Ⅱ. '2023年度　環境方針

企業活動を誠実に行い、社員の幸せを追求するとともに地域社会に貢献し、地球環境に配慮した事業活動に努めるため、以下の行動指針に従い行動する。

1. 営業・調達・生産・輸送等の提供においてクリーンな事業活動を推進し、環境へ及ぼす影響の予測・評価・改善に努めます。
2. 法規・条例・地域協定並びにその他の要求事項を順守するために、目的・目標を設定し、環境保全の維持・向上を図ります。
3. 事業活動に伴う廃棄物の発生に対し3R活動(Reduce、Reuse、Recycle)による循環型社会の推進に努めます。
4. 環境保全活動に積極的に参加し環境負荷物質の排出、CO_2排出を最小限にするよう取組みます。
5. 環境リスクの洗い出しと未然防止活動により社外への影響を最小限にするよう取組みます。

2023年6月　代表取締役社長 松葉口 学

Ⅲ. '23度 目標

1. ISO14001更新審査　認証継続(不適合:0件)

2. 電気	729	→	687	t-CO_2	(5.8%減)
3. 産廃	323	→	320	t	(1%減)
3. 水	3512	→	3494	㎥	(0.5%減)
4. 物流CO_2	2547	→	2399	t-CO_2	(5.8%減)
5. 法令順守	法令違反0件				

Ⅳ. '23年度 活動計画

重点実施事項	目標	担当関連部署	2023年度活動スケジュール (4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11 / 12 / '23/1 / 2 / 3)
1. ISO14001更新審査 →ISO14001認証の継続(2023年度更新審査)	認証の継続 不適合:0件	総務安全G	内部監査レビュー → 更新審査 → レビュー
2.1).(1) 電気 →電気使用量改善アイテムの提案・導入 →太陽光発電導入に向けた情報収集	2022年比 5.8%減	総務安全G 各拠点	改善アイテム提案 → アイテム導入 太陽光発電導入に向けた情報収集 → 予算化 → 導入に向けた準備
2.1).(2) 産廃 →ミラーマットの利材化運用開始 →各拠点の廃棄物分別徹底	2022年比 1%減	総務安全G 各拠点	運用開始 → 売却 → 売却 → 売却 → 売却 → 運用に問題が無いか都度確認 → 売却 → 売却 → 売却 → 売却 → 売却 → 売却 各拠点分別徹底、利材への切替ができる物の利材化
2.1).(3) 水 →日頃の節水活動と節水アイテム提案	2022年比 0.5%減	総務安全G 各拠点	各拠点でできる節水活動を実施、水使用量改善に向けたアイテム検討
2.1).(4) 物流CO_2 →燃費維持向上活動の横展と実践 →全車格での数値ではなく、各車格毎の数値に細分化し分析	2022年比 5.8%減	営業所統括センター 輸送拠点	各拠点燃費向上活動、部会にて進捗確認 評価 → 評価 → 評価 → 評価 → 評価 → 評価 → 評価 → 評価 → 評価 → 評価 → 評価 → 評価
3.1) 法令順守 →各拠点の該当法令や順守項目が分かる資料に修正 →昨年度未順守法令の確実な順守と標準化	法令違反:0件	総務安全G 各拠点	法令一覧見直し → 法令リスク見直し → 順守評価 拠点フォロー → 拠点フォロー → マニュアル、要領修正
4.1).(1) 力量向上 →EMSを本来業務に織り込み活動できるようプロセスの相互の繋がり説明 →教育後の理解度テストを実施し、着実に力量が向上するよう教育方法を変更	ISO担当者 力量:3	総務安全G	計画 → 教育 → 教育 → プレ監査 → 下期教育3回 力量評価方法の修正 → 教育後の理解度テストを作成し、力量向上を図る
4.1).(2) 環境改善活動 →カーボンニュートラルに向けた中長期計画の作成と目標達成に向けたアイテム検討 →目標未達時の評価ができるよう昨年度の状況を記録し評価するよう変更	中長期目標設定	総務安全G	スコープ1、2データ収集 → 各項目の目標値選定 → 改善アイテム検討 → 中長期改善アイテム予算化 → 次年度改善率の調整 目標未達時の分析ができるよう各情報を記録し毎月環境委員会にて報告
4.2) TB環境賞の指摘改善 →環境関連設備や点検類の自主基準値の設定と順守 →各拠点の環境リスクマップに応じた環境影響評価の実施 →浄化槽異常警報装置の導入検討 →センター長、部長に内部監査に参加して頂き運用面の監査レベルを向上 →各設備等の点検類フォーマットを統一し、同じ基準での管理をしていく →TB省エネ40アイテムの中で取組む活動を各拠点に決めて頂き愚直に活動	基準値超:無	総務安全G 各拠点	TB基準に沿った環境関連基準値設定 → 各拠点フォロー → 順守評価 リスクマップ見直し 環境影響評価 → 振り返り 異常警報装置の情報収集 → 予算化 計画 → 教育 → 内部監査 → 反省会 点検フォーマットの統一 → 維持管理 省エネ40アイテム展開　各拠点取組む項目決定 → 改善活動実施 → 振り返り
5.1) 働きやすい職場認証制度 →要求項目のレベルが上がる二つ星認証を目指し活動	二つ星認証	総務安全G	要求事項順守に向けた規定修正 → エビデンス準備 → 認証申請 → 合否判定
5.2) スコープ1、2、3の総量把握に向けた情報収集 →2019年度から2022年度までの温室効果ガス(スコープ1、2)総量把握 →スコープ3の排出量把握に向けた情報収集		総務安全G	過去実績把握 → 各項目の目標値選定 → 改善アイテム検討 → 中長期改善アイテム予算化 → 次年度改善率の調整 スコープ3排出量把握に向けた情報収集、各部・室への協力依頼
坂井室長確認㊞		確認日	/ / / / / / / / / / / /
		確認者	印 印 印 印 印 印 印 印 印 印 印 印